

1. ストライキ関連情報

①5/01、Hung Wah I 社にてストライキ

プノンペンにあるHung Wah I縫製工場では、仲裁審議会から労働者に対して仕事に戻るようこの命令があったにもかかわらず、2000人以上の労働者が、これからもストライキを継続する予定であると、労働組合のリーダーは話した。Free Trade UnionのYann Roth Keopisey氏の話によると、5/01、労働者達は離職する者へ年功加俸金を要求して、4時間にわたって工場前にある道路を封鎖し、音楽を流しダンスを踊っていたという。

②5/02、5000人以上の労働者が不満を掲げてデモ行進

5000人以上の労働者が国民議会前に集結し、議員に対して労働環境改善の請願書を示した。「すべての縫製工場に、技術のある医者をおいてほしい」と、ある労働者が訴え、また別の労働者は、「政府は工場周辺の借家の家賃に関して規則を設けるべきだ」と訴えた。また「縫製工場で働く男性労働者への差別、女性労働者へのセクシュアルハラスメントをただちに止めなければならない」と労働者側は主張しており、さらに「期間を定めた労働契約は止めにすべきである」という要求もある。

総選挙まですでに3か月を切っているが、現在、与党も野党も同じように、労働条件や賃上げに関する党の政策を必死で宣伝している。政治アナリストたちは、この労働問題をいかに扱うかが選挙を勝ち取るための重要な課題となると予想している。労働組合は、労働者たちに対し、7月28日に、「それぞれがどう投票するかきちんと心構えをするように」と呼びかけている。Cambodian Confederation of UnionsのRong Chhun氏は、「この20年間、賃上げと労働条件改善をずっと要求してきました。しかしそれらが受け入れられたことは一向にありません。フン・セン首相には新しいアイデアがありません。新たな指導者を見つける時です」と話した。



Cambodian Labour ConfederationのAth Thorn代表は、「選挙に勝つのが誰であろうと、最低賃金を月150ドルまで引き上げてもらい、また、公務員に関しては少なくとも月250ドルにしないとけません」と話す。「そして政府は、労働組合や抗議活動参加者を抑制するために、裁判所を利用するのを止めるべきです。代わりに労働者のための裁判所を設立しましょう」と述べた。また彼は、「元Bavet town市長のChhouk Bandithが、容疑者となっている昨年の発砲事件の犠牲者3人のためにも、正義を是正すべきだ」と付け加えた。縫製業労働者のSyneoun,さん(26歳)は、「政府への信頼はすでに失っており、変革を必要としており、野党であるCambodian National Rescue党かFuncinpec党のどちらかへ投票するつもりだ」と話す。Cambodian National Rescue党の代表Kem Sokha氏は、「われわれの党は労働者の権利を保護し、最低賃金も150ドルまで上げようと考えています。また、労働者達のための職業訓練所も設け、彼らにスキルを身につけさせ、より賃金の良い仕事の獲得を推奨します」と話した。

政治研究家のLao Mong Hay氏は、「労働問題がなくなることはないだろう」と前置きした上で、「野党が賃金問題を取りざたして以来、これはとても大きな問題となってきました。これによって与党は守りに入らざるを得なくなり、もし労働者がこれからも賃上げを要求し続けるのであれば、与党にとってはかなりのプレッシャーになるでしょう」と話した。また、「労働者のこういった要求は、カンボジア経済の発展のことを考えると至極当然のことです。縫製業に従事している労働者たちは、カンボジア経済がUSドルを獲得するのにかなり貢献しています。彼らは経済の発展により得た利益を享受する権利がありますし、富豪層と貧困層の差はなるべく埋めなくてはなりません」と付け加えて話した。また、労働者インフォメーションセンターのLoem Srey Mom氏もこの意見に賛同し、「彼らをもっと多く給料をもらうことができれば、その分健康面も良くなります。現在、労働者たちはお金がないので、4人でひとつの部屋に住んでいるような状況です」と述べた。

③5/09、M&V社で約5000人規模のストライキ発生

M&V縫製工場では、約5000人もの労働者がストライキを決行したが、ここ2年間でこういったストライキや労働者の失神といった事態がカンボジアの工場では頻発している。この工場のFree Trade Union代表Noun Sam Ol氏は、「マネージャーであるChan Narith氏が不当に解雇されたことが、今回のストライキの原因である」と話している。「労働者にトラブ

ルがあったとき、彼はいつも助けてくれました。彼には職場に戻ってきてほしいのです」と彼は話す。この工場では2011年の8月に数百人が仕事に失神をおこし、去年の6月には数千人がストライキを起こしている。工場の役員からのコメントはまだない。

④5/09、Pine Great 社、Master&Frank 社でもストライキ発生

プノンペン Meanchey 地区にある Pine Great 縫製工場では、700 人の労働者が道路を 30 分間封鎖し、賃上げを要求した。Free Trade Union の Phai Dara 氏の話によると、労働者たちは5/08に賃上げを約束されたようだが、いざ工場に到着してみると、設備は一切取り払われ工場はめちゃくちゃになっていたようだ。彼女の話では、労務省の職員が労働者側と面会し、会社側に対し5/09に給料を支払うように約束させたという。

また同日、Kandal 州の Ang Snuol 地区では Master& Frank 工場で働く 800 人が道路の封鎖を行い、不当に解雇された 8 人の労働者の復職を要求した。

⑤賃金上昇と共に、家賃なども上昇

5/10、カンボジア労働組合連盟の代表である Rong Chhun 氏は、工場地帯周辺に借家を持っている大家たちに対して、「労働者の最低賃金が上がったからといって家賃を上げないように」と注意を促した。実際、カンボジアの輸出産業のうち主要部門となる繊維産業に関して、今月から最低賃金が 61 ドルから 75 ドルに上がっているものの、すでに家賃も上昇傾向にあると Chhun 氏は話す。「家賃をあまり高くしないでください。賃上げは些細なものであるのに、高い家賃は労働者たちの生活水準に影響してしまいます」と、彼は書面で訴えかけた。「今月末より、家賃が 15 パーセントも高くなってしまう」、と訴えている労働者もいる。Chhun 氏は、「借家を所有している方々、親身になって考えてください。労働者のみなさんの許容範囲内でお願ひします」とも書いた。

コミュニティ法教育センターの労働プログラムで働いている Moeun Tola 氏は、「プノンペンの縫製産業で働く労働者たちから似たような話をよく耳にします。工場周辺で部屋を借りている労働者のうち何人かは、すでに家賃を上げられています。2010 年に 5 ドルの賃上げが決定した際にも、同じような事が起こりました。今回の賃上げも、最終的にはなかなか労働者の取り分とならないでしょう。トラックの荷台に最大 70 人程度まで労働者を乗せて稼いでいる個人ドライバーなども、賃上げ後には運賃を上げるなどの対応をすることがよくあります。物価も高騰し、道端の屋台でも値上がりが始まるようになります」とも述べた。

⑥縫製労働者の家賃と生活事情

Chhuon Ros さん(44 歳)は Meanchey 地区の縫製工場に勤めているが、月収が少し上がったことにより他の生活費も上がったことを感じているという。小さなテレビや衣服、タイのポップスターのポスターなどは、ほんの 10 平方メートルほどの部屋のなかに彼女の保有する数少ない持ち物である。ベッドがないこの部屋では、彼女は木の床の上で寝ざるをえず、それでも家賃を月に 10 ドルほど支払っているという。彼女にとってもちろん家賃の値上がりは望ましくないものだ。「居心地が良いとはいえません。暑くて小さい部屋です。でも、安いので気に入っているんです」と、昼休み時間中に彼女は話した。「私のお給料は、61 ドルから 80 ドルに上がります。やっと貯金が出来るのでうれしいです。これまで貯金なんて出来ませんでしたから」と話してくれた。Ros さんが借りている部屋の大家は、Sam Bunna さんという 34 歳の女性で、彼女はほかにも 4 つの部屋を労働者に貸している。家賃は 10 ドルから 25 ドルで、この 7 年間、値上げはしていないという。しかしそれも、もうすぐ変わりそうだ。「家賃を上げようかと思っています。他の大家たちが値上げするのであれば、私もします」と彼女は言う。Sen Sok 地区にある PCCS 縫製工場の代表である You Meng Try 氏は、「政府は労働者を守るために、家賃の値上げを規制するべきである。労働者たちの給料が上がったと聞いた途端に、家賃を上げる大家もいます」と話している。



⑦5/15、外国人記者が縫製工場に不法侵入

5/15、Kandal 州にある縫製工場に、「外国人ジャーナリスト 2 人が不法侵入をした」との情報が警察により伝えられており、この 2 人はそこで撮った写真を消去するよう命令されたという。Sitbou 地区の警察署長を務める Mey Sarin 氏は、

「カナダの新聞社である The Globe and Mail で働く記者 2 人は、無許可で工場に侵入したために、30 分ほど Dignity Knitter Limited に身柄を拘束されていた」、と話した。「労働者たちが、工場の大きい扉から出て来るタイミングに合わせて、記者は小さな方の扉から侵入しました。警備員は彼らを見逃してしまいました。しかし結局、警備員が彼らを見つけ捕え、“もう二度と無許可で工場内に侵入したり、写真を撮ったりしないように”と警告しました」と Sarin 氏は言う。経営側のひとりである Sun Heng 氏は、「自分たちがこうした命令を出したのは、記者たちが勝手に押しかけてきたからです。許可を求めないことには、記者だけではなく地元各自治体でさえも、工場には入れません」と、話した。

今回捕まった記者のひとりである Mark MacKinnon 氏は、「もう一人の記者とともに工場内への立ち入り許可を求めようと人を探していたが、ゲートにはだれも立っていない。ただ開きっぱなしのゲートがあっただけなので、訪問を許されているものだと思います。およそ 10 分後にわれわれはゲート付近に戻ってきたが、ちょうどそのときに工場経営者が近づいてきて叫び、ゲートを閉めた。90 分以上、私たちは捕まっていました。逃れようとするたびに引っ掴まれました。彼らは大変怒っていました。なにをそんなに恐れているのだから、私にはさっぱりわかりません」と、疑問を呈した。

2. 5/16、靴工場の天井崩落、2人死亡

5/16朝7時の始業後すぐに、コンボンスプー州コンピセイ地区にある靴工場で、天上が崩落し、労働者2人が死亡、6人が負傷した。同工場では、日本のスポーツ用品メーカー：アシックスの製品を下請け生産していた。

3. 5/01、日本がカンボジアに9,000万ドルの貸付

5/01、道路拡張のために日本の大使館が9000万ドルの貸付にサインをした。「海外からの開発援助や貸出金を順調に得られていることこそが、カンボジアに政治的安定が訪れた主な理由である。日本からの投資が2013年は2倍になればいいなと思っています」と、政府関係者は話している。承認されたこの道路計画は、BattambangとBanteay Meancheyを結ぶ国道5号線およそ47キロメートルの修復作業を行うというもので、この作業はバンコクやプノンペン、ホーチミンといった都市をつないで、貿易や観光をより活発化させるための大きな計画の一部であるとしている。



4. 5/01、200キロの偽薬が見つかる



首都プノンペンのPor Sen Chey区から、数種類の偽薬が合計200キロ近く見つかった。Por Sen Chey区の警察署長Born Sam Art氏は、「強制捜査が行われ、2人の容疑者が逮捕された」と述べた。押収された物の中には、注射タイプの密輸品なども含まれていた。記者からの質問にSam Art署長は、「内務省から共同調査の依頼があり、偽薬の製造現場に強制捜査を実施しました」と述べ、更なる詳細についての質問には答えなかった。

5. 5/02、地雷により1人死亡、3人負傷

Takeo州のTram Kak地区で地雷が爆発し、1人が死亡し2人が重傷を負った。警察署長のCheng Chantra氏の報告によれば、3人は家を建てるために森を伐採している最中で、うち一人が地雷を踏んでしまったものと見られている。この爆発で死亡したのはYoem Sarathさん48歳で、負傷したのはOeun OdomさんとMoa Poaさんである。「彼らは新しく引っ越してきた者たちで、このエリアに詳しくなかったのです」とCheng Chantra氏は話す。また別の事故であるが、Battambang州では、5/01、49歳の男性が同じく地雷によって自宅の前で負傷し視力を失ったという。

6. 5/08、落雷で2人死亡、7人負傷

Kampong Thom州では深刻な落雷被害が続いており、5/08には1人が死亡し7人が重傷をおっている。Baray地区の警察署長Em Vun氏の話によると、死亡した15歳のPek Noeungさんは他7人といっしょに暴風雨の中、避難場所を探して逃げ回っていたという。「彼らは田畑から逃げて木の下に逃げ込みましたが、そこに雷が落ちてきたのです」と話している。まったく同じ日、Preah Sihanouk州では44歳のHun Hornさんも雷に打たれその場で死亡している。Kampong Seila地区の警察署長Hy Doung氏によると、彼は農作業をしている最中だったようだ。国家防災委員会の最新レポートによると、今年の始めから、4か月間ですでに49人が雷によって死亡している。

7. 5/10、東京三菱UFJ銀行とカナディア銀行が提携へ

5/10、三菱東京UFJ銀行が、カンボジアの大手民間商業銀行のカナディア銀行と業務提携の覚書に調印した。カナディア銀行の最高経営責任者 Micheal Lor 氏は、「双方にとって顧客獲得への意見交換もでき、日本企業の投資加速に繋がる」、と語った。また、カンボジア国立銀行の Chea Serey さんは、「この同意はカンボジアの発展の起爆剤となるだろう」、と話した。2011年の日本企業の投資額は7,500万ドルだったのに対し、昨年は3.3億ドルまで跳ね上がり、また、Japanese Business Association of Cambodiaのデータによると、2011年の日本企業数が69社だったのに対し、2012年には101社となった。「カンボジアには様々な産業、国からの投資が集まっているので、経済発展は長期で続くものと思われまます。そのためカンボジアは他国にとって良い投資先になっているのです」とLor氏は話す。

8. 5/13、日本への輸出が上昇中

日本貿易復興機関ジェトロが発表した統計データによると、カンボジアの日本への輸出額が今年最初の四半期で、1億2600万ドルとなり、これは2012年同時期の1億200万ドルと比べると、23パーセント増ということになる。ジェトロ・カンボジアの代表:道法氏は、「カンボジアから日本への輸出が急激に増加したという事実は、2国間の結びつきをより強固なものにすると同時に、カンボジア輸出業の多様性を広げることに貢献するでしょう。衣料品や靴などといった、長い間カンボジアの輸出分野の主要品であった品々に加えて、電気機械類もまた輸出増加傾向にあります。ここカンボジアで自動車の部品を組み立てて日本に輸出している製造業もたくさんあります。カンボジアで日本の投資が伸びているもっとも大きな理由はこの輸出の増加にあります」と話している。

9. タイのコメ輸出業者、カンボジアに精米所設置

5/15、タイの米輸出業者は、カンボジアなど国外移転を進めている。アジア・ゴールデンライス社は、カンボジアに精米所を設置するため、同国企業との共同投資を決めた。将来、関連事業および港湾、発電所などへの投資も計画している。ナコンルアン・ライス社は、プノンペン付近でパーボイルド米加工工場を設置し、このほど操業・輸出を開始。

10. タイ衣料品メーカーのホンセン、カンボジアに工場建設

5/22、タイの衣料品メーカーのホンセン・ニッティングは、国内の賃金上昇や労働者不足問題を避けるため、ベトナム、ミャンマー、カンボジアの3カ国に工場を設置する計画を明らかにした。各工場の月産能力は80万~100万着とし、投資額は800万~1000万ドルの予定。カンボジアでは工場建設用地を探しており、2014年の着工を目指している。

11. UNDP、良品計画のカンボジア事業を「ビジネス行動要請」承認

6/03、国連開発計画(UNDP)は、衣料ブランド「無印良品」を展開する良品計画がカンボジアで行っているタオル染事業などを、UNDPが主導する「ビジネス行動要請(BCTA)として承認した」と発表。良品計画は2012年からカンボジアで、バラの花を摘み取った茎や、家具などに使う木材の破片から煮出した液体を使って、タオルを染め上げる生産事業を行っている。地域の特産物を生かし商品を共同開発、雇用を生み出すとともに、完成品を無印良品ブランドの世界中の店舗で販売する仕組み。国際協力機構(JICA)の「一村一品プロジェクト」とも連携している。

12. ポル・ポト関係情報

①フン・セン首相、大虐殺否定発言禁止法制定を呼びかけ

5/27、フン・セン首相は、ポル・ポト派による大量虐殺をめぐる、これを否定する発言を禁じる新法の制定を呼び掛けた。フン・セン首相は、ドイツやフランスなどではホロコースト(ユダヤ人大虐殺)を否定することが法律で禁じられていることに触れ、「欧州では、ヒトラーは人々を殺害しなかったと発言した者は訴追される」と述べた。ポル・ポト派による大量虐殺をめぐるのは、野党幹部が最近、悪名高いトゥールスレン政治犯収容所での虐殺を否定する発言を行ったと伝えられ、批判を浴びている。フン・セン首相は、7/28の総選挙を前にして、ポル・ポト批判を強めている。

②ヌオン・チア、大量虐殺を認め、初めて謝罪

5/30、ポル・ポト政権下での大量虐殺を裁く特別法廷で、人道に対する罪などに問われたヌオン・チア元人民代表議会議長(86)は、「私は自分の責任から逃れるつもりはない」と述べ、初めて謝罪の言葉を口にした。元議長は「指導者として、被害に対する責任を負わなければならない」と語るとともに、犠牲者家族に対し「心からの哀悼の意」を表した。ただ同時に、「ポル・ポト政権期に起きたことに関し、私が承知していたこともあれば承知していなかったこともある」とも述べた。

以上